

三心を磨く

学校だより No. 10

令和4年12月23日(金)発行

須坂市立東中学校

文責： (教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

◇◇◇◇◇ 暑い8月から始まった 長い2学期が終わりました ～終業式～ ◇◇◇◇◇

校長先生のお話◇◇◇◇◇

令和4年も残すところ8日となり、登校日数85日の2学期が本日をもって終業します。皆さん一人一人、先生方一人一人、全てのかげがえのない命が、欠けることなく今日を迎えられたことを何よりもうれしく思います。

始業式ではこのスライドのように、動と静の2学期において、各学年意識して欲しいことを話しました。先ほど、1年1組 さん、2年1組 さん、3年1組 さんが学年を代表して2学期の振り返りを発表してくれました。それぞれの発表にあったキーワードを並べてみましたが、そこから、縦と横に人と関わる中で、自分らしさを発揮しながら主体的に取り組むことを通して、達成感を得ることの出来た充実した2学期だったということがわかります。ここで、2学期を山本貴志さんの演奏とともに映像で振り返ってみましょう。

学校目標 三心自立 「学ぶ心」「思いやる心」「鍛える心」を磨き自立する



2学期終業式 R4.12.23(金)

3年生

- ・学校のリーダーとして、思う存分、力を発揮
- ⇒ 経験・達成感 = 進路に向かう原動力

2年生

- ・生徒会引き継ぎへの自覚と覚悟を
- ⇒ 3ヶ月後 = 立ち会い演説・投票

1年生

- ・東中の一員として、自分に何が出来るのか
- ⇒ 受身ではなく、主体的に行動

動 静



いかがでしたか？様々な学び・沢山の思い出を創ることが出来ましたね。

ここで、「プレイエルにいのちを吹き込む」にかかわって、少し話をしたいと思います。2・3年生は覚えていますか？「プレイエルにいのちを吹き込む」のはじまりは、昨年度の2学期終業式での校長からの宿題「山岸右京さんの調査」でした。それを受けて今年の2月、分散登校の中で行った校長講話で具体的に投げかけ、皆さんのアイデアを基にこのプロジェクトがスタートしました。1年生も小学校の卒業間際に講話を視聴してくれましたね。

そして東祭二日目の演奏会が開かれたのですが、山岸右京さんのご親族も来賓として参加してくださいました。このスタンディングオベーションをされている方々です。演奏はもちろん、何よりも皆さんの取組に大変感謝し、涙を流し、感謝されていました。

そして、同じく演奏会に来賓として参加いただいた本校の卒業生、村田陽子さん（旧姓 高橋さん）。村田さんは、当日、大変貴重な写真を持ってきてくださいました。プレイエルのピアノを弾いている写真。音楽堂を寄贈くださった山岸右京さんが来校した際に、音楽堂の歌を披露した時の写真などです。東中には今は残っていない大変貴重な記録です。

村田さんは当時ピアノを習っている生徒がほとんどいなかったため、プレイエルを自分のピアノのようにいつも弾いていたそうです。そして、高校卒業後、楽器店に勤めますが、ピアノ教師の資格を取り、長い間ピアノを教えてきたそうです。プレイエルが村田さんの人生を方向付ける大きなきっかけになったということです。その後、油彩画に打ち込むようになり、今は新極美術協会の理事を務めているようですが、ご自身の描いた「溪流」という作品を寄贈してくださいました。

ここで3年生にお願いします。3学期美術の授業で「東中をリノベーションしよう」という学習をすることになっていますが、その一つとして、この絵を飾るのにふさわしい場所・展示の工夫を考えてくれませんか。一人でもそれを考えてくれる人がいたらうれしいです。

このスライドは、資金集めグループの企業訪問チームのプレゼンの1枚です。修繕後の取組として3点挙げながら、資金協力を訴えました。プレイエルのピアノは東中生全員の手で修繕され、山本貴志さんの演奏によって確かにいのちが吹き込まれました。そのいのちは今どうなっているで

～昨年度2学期終業式～

最後に校長からの宿題です。（略）東中、東地区に関わりの深い山岸右京という人物について、調べてください。

中学校目標 三心自立 「学ぶ心」「思いやる心」「働く心」を磨き自立する

校長講話 (令和4年2月9日)



テーマ：新たな命を吹き込む

- ・1887 (M20) 年 (今から135年前) 仁礼村中村で山岸春風の子として誕生
- ・小学校を卒業後、長野の菓子店に奉公
- ・4年後、独立して長野に菓子店を開業
- ・「蘭光寺せんべい」を我案し、成功
- ・50歳で店を弟に譲り、東京へ
- ・土地家屋の売買等を経て (株) 西神田ビル社長として買事務所経営



村田（高橋）陽子さん
昭和37年度卒業生

昭和36(1961)年11月4日



PLEYELのピアノ



山岸右京氏来校
音楽堂の歌披露



PLEYEL
が村田
さんの
人生に
影響を
与えた

- ・東中ではPLEYELをいつも弾いていた
- ・高校卒業後、楽器店に就職
- ・ピアノ教師の資格を取り、ピアノを教える
- ・数年前須坂に転居。今は油彩画に打ち込む
- ・新極美術協会の理事を務め、展覧も開く



寄贈いただいた絵「溪流」F50

修繕後について

演奏会の開催



日常的な活用



価値の継承





PLEYELのピアノに、「いのち」は確かに吹き込まれた。

吹き込まれた「いのち」は、今どうなっているだろうか？

これから「いのち」をどう繋いでいけばよいのだろうか？

身につけた技術・学び方は他のことにも活かさないだろうか？

あなたには、何が出来る？どうしたい？

